

☆-----☆

【水上紀行のマーケットフォーカスト】 2022年1月4日配信

☆-----☆

++ [How now ?] ++

=====

◆◇高止まりについて◇◆

=====

■■ここが重要！-----

値動き分析の一例

-----

ドル/円 5分足



今日のドル/円のように、ショートストップロスが大きく出て急騰し、ロング筋はこれ幸いと利食うと、マーケットのポジションはほぼスクエア（ポジションなし）になります。

マーケットポジションがスクエアになるということは、ロングにもショートにもなっていないため、動かなくなります。

今日の場合、結構一気に上げた相場のため、なかなか値ごろ感からは売りづらく、むしろロングが出来たようで、それがロンドン勢に目ざとく見つけられて、投げさせられました。ポジションの大きさがそれほど大きくなかったため、ロンドン勢に売られて一瞬下がったところで、すかさず買い戻されて、動かなくなっています。

ポジションの偏りが少ない、他人のロスカットを狙うロンドン勢にとってはつまらない相場だと言えます。

こうなると、次の動きが出るまで、24時間とか結構長い時間が掛かることもあります。

しかし、上がり切らなくなると、値ごろ感からの売りが出て、マーケットポジションがショートになることもあります。

こうなると、スクエアからショートになるため、少し下押しした後、ジリ高になります。こうして、高止まりの水準がさらに上がることが起きるわけです。

そして、下がらないので買い戻すと、再びスクエアとなり横ばいに戻ります。

こうした膠着状態から、次の相場展開になるためには、相場が収束する必要があります。相場が収束するとは、本当に動かなくなって横ばいになる期間です。

これは、もっと長い、たとえば日足のレンジ相場でも言えることですが、レンジ相場がトレンド相場に移るためには、収束期という期間を経る必要が基本的にはあります。

この収束期に、動かない相場の中で、知らず知らずの内に、ポジションが一方に偏り、そして飽和状態になると、堰を切ったように、一方向に一気に動きます。

ですから、動かない相場では、静かにしつつ、マーケットのセンチメントがどちらに傾いているかを推理する必要があります。

ここで、お話ししたのは、値動き分析ですが、マーケットの展開を読むのに、結構い役に立つと思います。

値動き分析の解説を添付しておきますので、参考にしてください。

NY CLS 予想は、後程、お送り致します。

ひとまず。

=====

グローバルリンクアドバイザーズ株式会社

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第68号

大阪本社：大阪市北区神山町8-1 梅田辰巳ビル4階

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会

本ホームページ及び本サービスの電子メールに掲載されている内容等は、その取引の専門家からの情報提供を元に、当社がお客様に対し有価証券等の価値等の分析に基づく投資判断を助言するサービスで投資の参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資に関する最終判断は、お客様御自身の責任でお願い申し上げます。また、勧誘の目的としたものではありません。グローバルリンクアドバイザーズ株式会社のホームページ及び電子メール情報を使用し発生したいかなる損害（被害）及び民事、刑事的問題については、当社は一切の責任を免れます。金銭・有価証券の預託及び貸付は一切いたしません。

=====